

空気を読むってどういうこと？～山本七平の「空気の研究」をヒントに考えてみる～

哲学カフェ in 富山：2014年9月27日

進行役：野末雅寛

Q1. 「空気を読む」とは、あなたにとってどういうことか？なぜ「空気を読む」必要があるのか？

はじめに～『空気の研究』について～

1977年文藝春秋社より刊行以来、版を重ねて多くの人に読み続けられているロングセラー。あらゆる論理や主張を超えて、人びとを拘束するこの怪物の正体を解明し、日本人に独得の伝統的発想、心的秩序、体制を探ったことが多くの人に影響を与えている。

著者：山本七平（1921年～1992年）

東京都でクリスチャンの両親のもと生まれる。太平洋戦争に従軍、フィリピンで捕虜となった経験を持つ。戦後、聖書学を専門とする出版社を営む在野の学者として活躍。イザヤ・ベンダサン名義の『日本人とユダヤ人』もロングセラー。



『空気の研究』の概要

・空気…絶対権を持つ妖怪

空気発生条件…事物を絶対化する

① 物神化

ex)自動車魔女裁判、カドミウム金属棒、現代の放射能問題や日本国憲法？

② 二項対立で物事を把握して数量化しない

ex)官軍 vs 賊軍、公害 vs 経済発展

※日本では、数量化・相対化するよりも「水を差す」ことで空気支配を防いだ

・水を差す

通常性に帰る…腐食作用、消化酵素

和魂洋才

ex)科挙のない儒教、新井白石がシドッチを利用

文明開化 (⇔尊皇攘夷)、戦後民主主義 (⇔戦前のファシズム)

日本的状況倫理 (⇔固定倫理)

文明開化(水)であれ尊皇攘夷(空気)であれ、戦後民主主義(水)であれ戦前のファシズム(空気)であれ、崇拝する対象は変われど、状況に応じて特定の対象に感情移入している。

ex) 教育勅語を教えこんでいた教師が敗戦を境にして、日本国憲法を模範とさせる

⇒空気と水の相互呪縛

日本の根本主義 (ファンダメンタリズム、原理主義)

Q2.

・ Q1 で抱いたイメージから変化はあったか？

・ 空気の支配から逃れる方法はあるのか？